

丸亀製麺の茹で釜、大幅な省エネを実現 ～省エネ大賞 経済産業大臣賞を受賞～ 外食企業初、省エネ機器開発に携わることも評価される

～2020年1月29日、令和元年度省エネ大賞表彰式が開催～

丸亀製麺を運営する株式会社トリドールホールディングス(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長兼CEO:粟田貴也、以下当社)は、令和元年度省エネ大賞(主催:一般財団法人省エネルギーセンター)の省エネ事例部門において、最高賞にあたる「経済産業大臣賞」を受賞しました。

この度の受賞は、当社が発足した環境委員会のもとプロジェクトとして3社共同(中部電力株式会社、ニチワ電機株式会社)で開発に取り組んだ茹で釜が、電気使用量31.3%、水道使用量47.6%削減を達成しており、大幅なエネルギー使用量削減を実現したことによるものです。また、外食企業が主体的に省エネに取り組んだ実績が今後の環境問題への取り組みを外食業界全体に広げるきっかけとなりうることも高く評価いただいたと考えております。

従来、うどんを茹でる調理工程において茹で釜の沸騰や塩分濃度の調整は、従業員の経験に委ねられていましたが、この省エネタイプの茹で釜は、上記の従業員の経験で培ってきたものをデータ化し、ヒーターの出力と釜への湯の投入量を最適な状態に自動制御することができます。

今後も自然の恵みである「食」を扱う企業の責任として、環境に配慮した店舗、商品、サービスの開発に取り組み、社会の持続的発展に貢献してまいります。

【経済産業大臣賞受賞の概要】

■受賞テーマ

「茹で釜の自動制御による省エネルギーの取り組み」

■共同事業者

中部電力株式会社、ニチワ電機株式会社

■事例概要

ヒーター出力およびさし湯量を最適な状態に自動制御することにより、電力使用量31.3%削減、水道使用量(さし湯量)47.6%削減を達成。

